

構造化抄録フォーム

番号	2_2_list_12
タイトル	Rotational panoramic versus intraoral rectangular radiographs for evaluation of peri-implant bone loss in the anterior atrophic mandible
著者名	Zechner W, Watzak G, Gahleitner A, Busenlechner D, Tepper G, Watzek G
雑誌 年;巻:頁	Int J Oral Maxillofac Implants 2003;18:873-8
目的	高度顎堤吸収患者の前歯部インプラント周囲骨変化の評価における口内法撮影とパノラマ撮影の診断精度の比較を行うこと
研究デザイン	<input type="checkbox"/> meta-analysis <input type="checkbox"/> systematic review <input type="checkbox"/> DB-RCT <input type="checkbox"/> RCT <input type="checkbox"/> CCT <input type="checkbox"/> cohort study <input type="checkbox"/> case control study <input type="checkbox"/> case series <input type="checkbox"/> case report <input checked="" type="checkbox"/> others
研究施設	University of Vienna, Ludwig Boltzmann Institute of Oral Implantology, Vienna, Austria
対象患者	22名の下顎前歯部インプラント患者（88インプラント）
介入・検査	口内法（rectangular）撮影とパノラマ撮影による経過観察 臨床検査（ポケット深さ, periostest, 出血）
評価項目	インプラント周囲辺縁骨吸収量測定
統計手法	Spearman coefficient of correlation
結果	パノラマ撮影による測定値と口内法撮影による測定値の差は 0.2 mm (range, 0.1 to 0.8 mm)と僅かであった.
尤度比 Odds 比	
結論	高度に顎堤が吸収しているインプラント患者の経過観察時、口内法撮影をおこないつらい場合があるが、パノラマ撮影による評価でも十分信頼しうる

コメント	今回の結果では、2手法で僅かな誤差しか見られなかったが、前歯部であるため、パノラマ撮影の軌道合わせの問題も残される。臼歯部での評価はどうか？
記載者	田口 明

作成上の注意：

1. 番号は、“Clinical Question 番号”-”文献検索フォーム文献リスト番号”としてください。
2. 研究デザインは該当するものを必ずチェックしてください。
3. 評価項目では、研究のエンドポイントが何に設定されているのか明記して下さい。
4. 結果では、診療行為（検査）の利得や害についての結果が得られている場合は明記してください。
5. 鋭敏度、特異度が算出されている場合は記載して下さい。また、尤度（ゆうど）比を算出して記載してください。
6. OR（Odds ratio）、ARR（absolute risk reduction）、RRR（relative risk reduction）、NNT（number needed to treat）などが算出されている場合は、95%CI（confidence interval）と共に記載してください。
7. 入力欄が不足の場合は適宜行数を増やしてください（それによってフォームが2頁以上になっても構いません）。